

平成 26 年度 後学期
お茶の水女子大学 生活科学部 特別設置科目のご案内
(ECCELL 社会人プログラム)

後学期は、火・水・木曜の 11・12 限 (18:20～19:50) に 1 科目ずつ、集中講義で 3 科目、合計 6 科目を開講いたします。

【前学期】

火曜日 : コミュニティ保育資源の活用Ⅳ
水曜日 : 乳幼児発達障害論Ⅳ
木曜日 : 現代保育課題研究Ⅷ
集中講義 : 乳幼児保育マネジメントⅣ
集中講義 : 子ども理解と保育の探求Ⅳ
集中講義 : 比較保育実践研究Ⅳ

後学期開講科目 シラバス

コミュニティ保育資源の活用Ⅳ

2単位 火曜日※

(※開講日時の詳細は授業計画参照)

担当: 多田 千尋 (東京おもちゃ美術館館長)

主題と目標

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げる。また、現場検証を重視しつつその方法を探り、コミュニティ保育資源の可能性を具体的に探り、地域コミュニティを精査できる力を育むことを目標とする。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □講読 □実験 □実習 ■実技 ■発表 □演習 ■施設見学

教科書・参考図書

「遊びが育てる世代間交流」(黎明書房)

評価方法・評価割合

■ 小論文 (レポート) (割合: 40%) ■ 出席 (割合: 60%)

授業計画

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行をするうえで、その方法を探り、文化構想を展開する道標を検証する。また、2008年4月に廃校となった元小学校に、地域

住民と NPO との文化協働で創設された東京おもちゃ美術館及び赤ちゃん木育ひろばなどの現場検証も十分に実施し、できる限り学外に出向きミュージアムや子育て支援施設の持つ保育資源の可能性も考察する。

- (1) 保育施設が地域と繋がりあう文化協働とは何か
- (2) 地域で保育資源を紡ぐ、保育資源を創る
- (3) 地域とのファシリテーター、インタプリターとしての保育者の可能性
- (4) 老若男女共同参画から見た子育て支援施設の可能性
- (5) 東京おもちゃ美術館が創る「多世代交流」「幼老統合ケア」

【開講予定】

- | | | | |
|-----------|--------------------------------|-----|-------------------------|
| 10月 7日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ①② | お茶の水女子大学にて |
| 11月 4日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ③④ | 東京おもちゃ美術館にて |
| | | | ③『赤ちゃん木育ひろば』(石井今日子) |
| | | | ④『赤ちゃんから始める生涯木育』(石井今日子) |
| 11月18日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ⑤⑥ | 東京おもちゃ美術館にて |
| | | | ⑤『TTM の被災地支援』(馬場清) |
| | | | ⑥『病児の遊び支援』(山田心) |
| 11月25日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ⑦⑧ | お茶の水女子大学にて |
| | | | ⑦⑧いずみナーサリーの実践に学ぶ |
| 12月 9日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ⑨⑩ | 東京おもちゃ美術館にて |
| | | | ⑨『伝承手作りおもちゃを作る』(佐野佐和子) |
| | | | ⑩『伝承遊びから探る子どもの育ち』(橋坂智子) |
| 12月20日(土) | 見学 | | 東京おもちゃ美術館にて |
| | 10:00～12:00、13:00～15:30 (3コマ分) | ⑪⑫⑬ | |
| | | | ⑪『企画展解説』(早川玲奈) |
| | | | ⑫『TTM プログラム体験』(橋坂智子) |
| | | | ⑬『TTM プログラム体験』(橋坂智子) |
| 1月13日 | 18:20～21:30(2コマ連続授業) | ⑭⑮ | お茶の水女子大学にて |

【現場視察及び検証候補】

東京おもちゃ美術館
赤ちゃん木育ひろば
いずみナーサリー

学生へのメッセージ

クオリティの高い学びは現場にこそあり、多くの専門家との交流の中で育まれます。こうした視点を重視した授業を多角的に、多面的に展開します。

主題と目標

乳幼児発達障害論後期では、前期に引き続き、乳幼児期に比較的良く見られる神経、精神疾患について概説する。具体的には、てんかん、脳性まひ、筋疾患などの神経疾患、精神遅滞、言語遅滞、協調性運動障害などの発達障害、さらに心身症、不安障害、うつといった精神疾患の特徴、原因と対応について、詳しく解説する。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

教科書・参考図書

適宜プリントを配布する。

評価方法・評価割合

■ 期末試験 （割合： 50%） ■ 出席 （割合： 50%）

授業計画

- | | | |
|--------|---|-----------------|
| 10月 1日 | ① | てんかん1について |
| 10月 8日 | ② | てんかん2について |
| 10月15日 | ③ | 脳性まひについて |
| 10月22日 | ④ | 精神遅滞について |
| 10月29日 | ⑤ | 言語遅滞について |
| 11月 5日 | ⑥ | 心身症について |
| 11月12日 | ⑦ | 神経・筋疾患について |
| 11月19日 | ⑧ | チックについて |
| 12月 3日 | ⑨ | 摂食障害について |
| 12月10日 | ⑩ | 排泄障害について |
| 12月17日 | ⑪ | 協調性運動障害について |
| 12月24日 | ⑫ | コミュニケーション障害について |
| 1月 7日 | ⑬ | 不安障害とうつについて |
| 1月14日 | ⑭ | 児童虐待とその後遺症について |
| 1月21日 | ⑮ | 試験 |

学生へのメッセージ

医学的観点から見た発達障害について、分かりやすく解説します。

主題と目標

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人向きであるが、学生参加も可。

授業の形態

■講義 ■討論 ■購読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

評価方法・評価割合

■ 出席 (割合: 50%) ■ 発表 (割合: 50%)

乳幼児保育マネジメントⅣ**2単位 集中講義※**

担当: 安治 陽子 (お茶の水女子大学 人間発達教育研究センター 特任講師)

(※開講日時は授業計画参照)

主題と目標

子どもの育ちは、それぞれに豊かな学びと発達に支えられている。保育の場は、そのような豊かな学びと発達を子ども自身が実現していく場であり、保育者には、それを細やかな配慮のもとに準備し、さまざまな保育・教育資源、人的資源を活用しながら保育環境を構成していく力、さらにその場に応じて一場面の展開に応じて、また子どもの育ちに応じて柔軟にアレンジしていく力が求められる。子どもの育ちも保護者のニーズも多様化し、保育のあり方も複雑化しているなかで、しかし子どもは、実に豊かな学びを実現し、発達を遂げながら、保育という場で生活体験を積んでいる。子どもの生活体験について、その豊かな学びと発達に即して理解を深め、日々の保育の意味をとらえ直す作業を通して、保育の質向上のための取り組みを自ら駆動していく力をつけることを目標とする。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 ■演習

教科書・参考図書

授業で紹介する。適宜レジュメや資料を配布する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート） （割合： 50%） ■ 出席 （割合： 20%）
■ 討議 （割合： 30%）

授業計画

1月10日（土） ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

子どもの生活体験を「発達」から考える

- ① 姿勢運動発達が子どもの生活体験を広げる
- ② 感覚・知覚発達と保育環境の構成
- ③ 社会情動発達と保育における関係性の構築
- ④ 認知・言語発達と子どもの遊び

1月11日（日） ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

生活の中の豊かな学び

- ① かたづけ ― 分類と概念、記憶の発達、「しまうーおさまる」という理解
- ② 時間 ― 「場面の移行」「人の出入り」「活動の流れ」を理解するとはどういうことか
- ③ 科学的思考の芽生え ― 驚きと発見、探索と思考を支える
- ④ 協同性 ― 仲間とのかかわりと自己・他者理解

1月31日（土） ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

学びと発達の保障―質の高い保育とは

- ① 保育の質をめぐる議論
- ② NICHD（アメリカ国立小児保健発達研究所）の保育縦断研究から
- ③ グループワーク：「保育の質」を構成する要件とは
― 保育環境・保育実践振り返りシートを作成してみよう
- ④ ディスカッション：保育の質向上のために

2月1日（日） ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50

子どもの育ちを見守る

- ① 子どもの育ちを記録する ― 保育記録と実践への活用
- ② 子どもの育ちを共有する ― 記録の共有、事例検討の方法
- ③ 子どもの育ちを支える ― 園内、園外、保護者との連携・協同

学生へのメッセージ

子どもの発達と学習にかかわる保育環境のあり方について理解を深め、配慮の行き届いた保育環境作りの可能性を考えてみましょう。

（24年度に履修された方も、内容を追加・変更して講義を行いますので、受講可能です。）

子ども理解と保育の探求Ⅳ

1単位 集中講義※

担当：刑部 育子・浜口 順子・小玉 亮子（お茶の水女子大学大学院 教授）

（※開講日時は授業計画参照）

主題と目標

3名の講師がそれぞれの視点からビジュアル資料を中心に持ち上げ、子ども理解を試みます。①写真を材料にしたワーク（刑部）、②戦前の幼児の教育絵本から子ども観の変化を読む（浜口）③映画から考える子ども達の今（小玉）、などの内容を予定しています。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 ■演習

教科書・参考図書

特にテキストを指定しないが、毎回必要な資料（プリントなど）を配布する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート） （割合：70%） ■ 出席 （割合：30%）

授業計画

- ① 12月 6日（土）①14:00-15:30 ②15:45-18:00 : 刑部 育子
- ② 12月 13日（土）①14:00-15:30 ②15:45-18:00 : 浜口 順子
- ③ 12月 27日（土）①14:00-15:30 ②15:45-18:00 : 小玉 亮子

学生へのメッセージ

映画、写真、絵本という、言葉や文字を超えたメディアの力を感じながら、実践的な子ども理解を試みてみましょう。現場の保育者や社会人の方と、大学の学生がともに受講する場となります。

主題と目標

主題：「多文化化する日本の社会における子どもと多文化共生」を考える

日本においても様々な出自を持つ人たちが増えてきました。近年日本に在住するようになったニューカマーの人たち、長く日本に住み、3世や4世の世代になりつつあるオールドカマーの人たちの存在もあります。そこで日本の移民政策の歴史を振り返りつつ、改めて日本社会における多文化化を再確認し、正しい背景知識を持つことを目指します。そして様々な文化的背景にある子どもたちやその両親の思いに気づけるよう、主にアジア諸国の保育環境がどのようなものかをビデオ映像やドキュメンタリー、映画といった映像や出版物を通して観察し、各地域が持つ文化的背景の違いを学習します。また、宗教は生活の一部となっている国や地域もあります。宗教による生活習慣の相違も知識として理解することを目指します。教育現場において「なぜ?・どうして?」と疑問に思う行動に出る子どもや、親の要求の背景には必ず理由があります。気が付かないうちに偏見や差別のまなざしを向けることのないよう、私たちが当たり前、常識と思っている事がユニバーサルなものなのかを受講生の皆さんと再確認していきたいと思います。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 ■講読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習 ■映像鑑賞

教科書・参考図書

教科書の指定はありません。毎回プリント資料を配布する予定です。

評価方法・評価割合

- 小論文（レポート） （割合： 60%）
- 発表 （割合： 30%）
- その他 （授業中の貢献度） （割合： 10%）

授業計画

11月23日（日） ①10:40-12:10 ②13:20-14:50

11月29日（土） ①10:40-12:10 ②13:20-14:50

12月23日（火） ①10:40-12:10 ②13:20-14:50 ③15:00-16:30 ④16:40-17:25

- 1、受講者それぞれが自己紹介をして、生活習慣の共通点、相違点を確認し合います。文化とは何か、の話し合いをしてから「日本の移民政策の変遷」に関する講義をします。
- 2、実験記録映像、「青い瞳、茶色い瞳：分断されたクラス」を鑑賞して、偏見や差別が子どもたちの間でどう形成されていくのかを観察します。身の回りで似たような事例がないか、なぜそのようなことが起こるのかをディスカッションを通して考えます。
- 3、中国・上海市、台湾・台北市の幼稚園児の一日を撮影した記録映像を鑑賞。両地域の差異と共通点、日本との違いについてディスカッションをして確認します。

資料：タイガー・マザー

- 4、ソウルと日本の幼稚園児の一日を撮影した記録映像を鑑賞。両地域の差異と共通点を探ります。 資料：賢い親の子育て術
- 5、宗教と教育： 宗教による禁忌物と風習・習慣について、世界の貧困地域と女子教育についての基礎知識。
- 6、OECD 諸国の ECEC 動向を資料から読み解く 資料：Starting Strong II, II
- 7、受講者各自が興味を持った地域、国、施設などをテーマを決めて調査・発表していただき、発表後にディスカッションを通して受講生皆の共通認識を持つことを目指します。

学生へのメッセージ

様々な背景を持った受講生の方が参加されることを期待しています。参加者が互いに学び合える環境を作っていきたいと考えています。